epoch
エポック No136号
～千代田区生涯学習推進委員会議だより～
令和7年(2025年)9月発行

第15期第6回生涯学習推進委員会議　概要報告

令和７年７月 31 日(木)に開催された千代田区生涯学習推進委員会では、若者の地域参加と世代間交流が議題となった。ちよだイズム倶楽部のアンケートでは、「地域との関わり」や「仲間づくり」が参加動機として挙げられた一方、時間的制約や企業との接点不足が課題とされた。神田錦町町会による新入社員歓迎イベントの分析では、若者や企業の地域行事参加が町会活動の活性化につながっていることが確認された。特に在勤者の中川氏による個人参加の事例が注目され、情報発信や心理的ハードルの低減に向けた提案が紹介された。

会議では「若者の参加促進」など６項目の提言骨子が示され、情報発信や町会加入促進、学校との連携の難しさなど多様な意見が寄せられた。次回会議で提言書素案が提示され、令和８年３月の提出に向けて議論が進められる予定である。

ちよだイズム倶楽部 アンケート結果

■対象と回収状況

対象者:千代田区在住・在勤の 20～30 代の若者(計 16 名)

回答数:７名(約 44%)

■ アンケート項目と主な回答傾向

① 応募の動機

人からの紹介、広報を見て興味を持った、地域との関わりを持ちたい、仲間づくりをしたい

② 良かった点

仲間と知り合えた、地域交流ができた、新しい視点を得られた

③ 課題・改善点

時間が短くて物足りなかった、企業との接点が少なかった

④ 今後の希望・要望

地元企業との交流機会、国際交流イベント、グルメや体験型の企画

神田錦町大歓迎会 インタビュー

■インタビュー対象者と主な意見

①町会関係者(町会長・青年部)

背景:町会の高齢化と担い手不足への危機感

目的:若者を神田祭など地域活動に巻き込む

成果:町会活動への参加者が増加、地域での挨拶や交流が活発化、若返りと地域の活性化に貢献

②学生・新入社員

感想:社会人とのリアルな交流が貴重、地域活動への興味が高まった

課題:活動資金や場所の不足、情報が届きにくい

③企業関係者

メリット:自社製品やサービスの PR 機会、地域とのつながりが深まる、町のイメージが変わった

■ 課題と改善点

告知不足、参加のハードル、情報発信

■今後の展望

継続的な交流:小規模でも継続的な活動を希望

多世代・多文化交流:若者、高齢者、外国人など多様な層との交流を促進

企業との連携強化:地域貢献や社会教育との接点を増やす

神田錦町二丁目町会青年部　中川様　講演

千代田区神田錦町二丁目の企業に 9 年間勤務しており、地域との接点は千代田区企業の開発説明会への参加がきっかけだった。説明会で地域住民の温かさに触れ、偶然居酒屋で町会青年部と出会ったことから自然な流れで町会活動に関わるようになった。

「よそ者」である自分だからこそ、外から人をつなげる役割が果たせると感じており、情報不足が地域参加の障壁になっていることを実感した。神田祭では 5,000 枚以上の写真を撮影し、神田スクエアでの写真展を企画するなど、SNS やイベントを通じた情報発信に力を入れている。

町会活動は子どもも多く参加するアットホームな雰囲気で、他町会との交流も活発。顔見知りが増えることで地域の安全にも貢献できると考える。企業として町会に入るのはハードルが高いため、個人の自発的な参加を促すことが重要であり、今後、区の施策が現場に届きにくい点についても、発信方法の改善をしていきたい。

提言書の骨子（案）について

①若者の参加促進と情報発信の工夫

若者が地域活動に関心を持ち参加しやすくなるよう、SNS や広報の工夫、参加メリットの提示を行う。

②世代間交流の促進

共通の関心テーマや地域行事を通じて、若者と高齢者が自然に交流できる仕組みをつくる。

③多文化・多民族共生の推進

外国人住民との交流や災害時支援を強化し、多文化共生を学び合える場を提供する。

④障害者支援と社会的包摂

障害者の活動参加や発表機会を広げ、合理的配慮を通じて誰もが地域に関われる環境を整える。

⑤人材育成とボランティア支援

若者や企業と連携し、地域活動を担う人材の育成とボランティア支援体制を充実させる。

⑥地域資源の活用と施設整備

公共施設や地域資源を柔軟に活用し、誰もが参加しやすい交流の場を広げる。

意見交換

・若者の地域活動参加には、**SNS などの情報発信手段の工夫**が必要
・町会活動の敷居が高く感じられるため、**参加しやすい雰囲気づくり**が重要
・学校との連携は意義があるが、**実務的な調整が難しい**という課題がある。
・地域イベントの告知が見えづらいため、**掲示方法や広報の改善**が求められる。
・若者が「参加したくなる」仕掛け（ポイント制など）を**制度化すべき**。
・地域行事を通じた**世代間交流のモデル化**が有効
・外国人住民との交流には、**言語支援や文化イベントの充実**が必要
・障害者支援では、**合理的配慮の実践と発表の場の提供**が求められる。
・PTA や地域団体の**人材ネットワークの活用**が可能性を広げる。
・区の施策が現場に届きにくいため、**発信方法の多様化と工夫**が必要

～リレー随筆～

「学び続ける力を育む」

千代田区立神田一橋中学校　校長　盛谷　樹

「生涯学習」とは、年齢や立場に関係なく、誰もが自らの意思で学び続ける営みです。私たち神田一橋中学校では、「生涯に渡って自ら学び続ける学習者の育成」を目標に掲げ、日々の教育活動に取り組んでいます。

先日、本校生徒は、神田・神保町地区を中心とした事業所の方々のご協力を得て、３日間の職場体験を行いました。この体験は、勤労観や職業観を育むことを目的としており、中学２年生という多感な時期の生徒たちが、自らの将来について考える貴重な機会となりました。実際の職場で働く方々の仕事への熱意に触れるとともに、「働くこと」について、たくさんの御助言をいただきました。本校生徒は、今回の貴重な体験を通して、仕事の意義や責任、やりがいを肌で感じ、自己有用感や社会の一員として貢献する達成感を得ることができました。職場体験を通じて、生徒たちは「学び」自体が教室の中だけで完結するものではなく、社会との関わりの中で、さらに広がっていくものであることを実感しました。

また、千代田区には、現在進行形で「生涯に渡って自ら学び続けている」方々が、大変多くいらっしゃいます。私自身もその姿に深く感銘を受けています。これからも地域の方々にお力添えいただきながら、未来を担う子どもたちに「いきいきと学び続ける力」を届けていきたいと思います。そして私自身も学びを止めることなく、歩み続けていきたいと思っています。

「学び直しは愉しい」

女子学院中学校・高等学校　本多秀子

日本の古典というとどんなイメージでしょうか。もっとざくっと、文学についてと言ってもいいかもしれません。どうせ役に立たないとか、文法がトラウマだといった呟きが聞こえてくるのですけれど、そんなふうに言えるのは、忘れていてもいつでも近づけるように、古典の側がどーんと構えているからだと今は考えています。

大学を卒業して本に関わる仕事に就いていたものの、古典の魅力によく気づかないまま通り過ぎようとしていました。そのうち、いったい何ができるのかと新たな発想を問われることがあり、苦しまぎれに出てきたのが、日本の古典をふたたび探ることでした。

古典は見逃しやすく退屈なものと思われがちですが、日常の中でも感覚を鋭くすると、暮らしや文化、私たちを取り巻く自然と深く結びついていて、何より、生きることに欠かせない「ことば」にいろいろな形で流れ込んでいるものなのです。

そこに子育てが加わりました。ことばと馴染んでいく子どもが、小学校に入って家で国語の教科書を声に出して読むときの、なんともいえない、生き生きとした心躍るもの！

やがて中高生に国語を教えるようになり、遅れてきた教師と自ら名づけ、教科書や副教材を基本から紐解き、問題集にも新鮮な気持ちで取り組んできました。見聞し探究する裾野を広げつつ、学びはいつもはじまりだという気持ちを大切しながら、日々生徒と出会っています。

【編集／発行】千代田区　地域振興部　生涯学習・スポーツ課　〒102-8688　千代田区九段南 1-2-1
TEL：03-5211-3632　／　FAX：03-3264-1466　／　Mail：shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp